

国際京都学だより

第7号 二〇〇八年（平成二十年）二月一日（金）

編集：国際京都学協会事務局
〒604-8383 京都市中京区西ノ京小堀町二五三
ホームページ <http://www.kyotogaku.org/>
Eメール info@kyotogaku.org

発行：国際京都学協会

題字は書家・杭追柏樹（くいせこはくじゆ）氏

源氏物語千年紀

朧谷 壽

二〇〇八年は源氏物語千年紀の年であり、十一月一日には記念式典が
挙行される。京都府主導で動き出したこの企画は、二〇〇六年十一月一
日の呼び掛けに始まり、委員会が組織され、具体的な事業立案などを検
討する企画部会が設置された。部長には呼び掛け人の一人、国際京都
学協会の芳賀徹理事長が就任され、さまざま催しがすでに始動してい
る。そして二〇〇七年一月一日には京都都会館第二ホールで「華麗なる源
氏物語の世界」序章」と銘打った「源氏物語千年紀」プレイベントが行わ
れ、金剛永謹氏の舞囃子「源氏供養」にはじまり、ドナルド・キーン氏の「源
氏物語と私」と題した記念講演の後、いくつかのアトラクションがあり、一
年後に向けての強い意志表示となった。

ところで千年前の『源氏物語』の存在は何によつて知られ、十一月一日に
どういう意味があるのか。十世紀末から十一世紀にかけて政界の頂点に
あったのは、「この世をば」と我が世を謳歌した藤原道長（九六六～一〇二
七）であり、その栄華を支えたのは彰子（一条中宮）・妍子（三条中宮）・威
子（後一条中宮）・嬉子（東宮時代の後朱雀妃）の四姉妹であった。なかで
も礎を築いたのは彰子である。

十二歳の時に一条天皇に入内し、九年後に懐妊した中宮彰子は、出産
のために多くの女房たちを伴つて実家の土御門殿に退下した。寛弘五年
（一〇〇八）初秋のことである。女房の一人、紫式部は「秋のけはひ入り立
つままに、土御門殿のありさま、いはむかたなくをかし」と秋色漂う邸内
の様子を日記の冒頭に記した（『紫式部日記』）。退下から二ヵ月、彰子は

無事に皇子（敦成親王）を出産、道長は「彰子、やつたぞ！」と狂喜し、夜
討ち朝駆けで乳母の部屋へ赴いては若宮を抱き取つてあやしたという。三
夜・五夜…と節目ごとの祝宴がもたれたが、十一月一日の五十日（いか）
の祝いの時、藤原公任が紫式部に向つて「あなかしこ、このわたりには、若紫
やさぶろふ」と語つたことが、『源氏物語』の存在を示す根拠となつたので
ある。ほかにも「うちの上（一条天皇）の、源氏の物語、人に読ませたまひ
つつ聞こしめしける」、「源氏の物語、御前（中宮彰子）にあるを、殿（道
長）の御覧じて」など『源氏物語』の存在を示す記述がみられる。

千年紀に巡り合わせたことを無上の幸せと感じ、事業が成功裏に終わ
ることを祈りたい。

（同志社女子大教授）

第六回国際京都学体系研究会 二〇〇七年七月三日（弥生会館） 「祇園祭の魅力―山鉦の国際性を中心に」島田 崇志（まつり研究家）

コンチキチンの音色が街にもどつてきた七月のはじめ、祇園祭りにちなん
だ話題をお二方からいただくことができた。まず「写真で見える祇園祭の
すべて」（光村推古書院）の著者でもある島田さんが長年にわたる研究成
果をたつぷり披露してくださつた。「祇園祭は歴史・規模・伝統により日
本最大の祭りで、巡行日の十八万人に加え、宵山の三日間で百五十万
人もの人出があります。そのうえ、「わたしがいなかったら動かない」とい

（つづく）

う車方や大工方など山鉾関係者だけでも一万五千人もの人びとが参加しています。この祭りの特色は、一、多くの行事があること、二、八坂神社の祭礼であるが、さまざまな町内が自分の神様を奉じている多様性、三、山鉾を飾る彫刻、織物、飾り金具などの総合文化、といったところにあるとかんがえます。」

「とりわけ織物は全体で九百点あるなかで三百点が海を越えて渡ってきた渡来品であり、異国情緒に満ちています。中国からのものが多いが、李朝鮮のものがかなりあることがわかりました。さらに、インド更紗やペルシヤ絨毯といったインドのムガル帝国やイラン、イラクのものがあります。」鯉山のタペストリーは一六〇〇年頃にベルギーのフランドル地方で製作されたものであることがわかりました。ギリシヤのホメロスの叙事詩「イーリアス」の重要場面トロイ王の英姿を描いているのです。興味深いことに、このタペストリーは鯉山だけでなく、鶏鉾、白楽天山、霰天神山にもあり、一連のシリーズものだったことがわかりました。ほかに長浜の鳳凰山や大津の龍門滝山などの図柄ともかかわりが認められています。」

これらの由来について興味あるお話もうかがえた。「祇園祭のこういった織物は鎖国以前に日本にはいり、前田家などの大名が所蔵しました。どうやら会津若松を支配したキリシタン大名の蒲生氏郷も関与したのではないかと推察できます。オルガティノは鯉山の隣に京都南蛮寺を建てましたが、それを描いた図をみると鯉山の町内では南蛮帽子をつくっている様子がみとれます。その後、藤倉(後代の松坂家)や三井の仲介で、室町や新町の商人が京都や長浜などに売ったようです。文化文政の時代に長浜の鳳凰山が二百両で購入されたことを示す文書が残っているが、鶏鉾も同じ時代にはいったのでしょう。」

スライド写真をまじえた講演を聞いて、山鉾の懸装品にみられるとおり、祇園祭というのは、まことに国際性のあるものだということを実感することができた。

杉田さんは山鉾町のひとつである鯉山町にながく住みつけ、祇園祭についても町内の役割をつとめられ、近年の『鯉山誌』の改訂にも中心的な役割をなっておられる。そういった地元の住民の立場から、京都がどのように見えるのかというお話をうかがうことができた。

まずは祇園祭の内幕から。「外部の人が京都についていろいろなことをおっしゃいますが、住んでいて日常を暮らしている者の見方はそれと違います。鯉山は重要文化財のタペストリーで有名ですが、左甚五郎作といわれる鯉もあります。町内に夜は五軒しか住んでいませんが、昼間は店を開いているのが二十九軒ほどあります。さらにマンションに一三五戸住んでいますが町内活動に参加しており、鯉山町では旧住人との関係はうまくいっています。」

京都は明治初年に地区で小学校を建設したように、町内単位でいろいろなことをやります。祇園祭も各町内が競い合って、向かいの町内に負けぬようにとして、今日のようなものになったものです。祭りを通じて町内の人どうしの連携が成り立っていくという役割も演じてきました。」

「京都の特色は千年間も都であったということで、住んでいる人も洗練されていることでしょう。京都のしきたりを知らないとおほうにされるとか「京都のぶぶ漬」というのは嘘でしょう。ただ、まわりの雰囲気ですきたりが、なんとなく身についてくるというのが京都の特徴ではないでしょうか。」

「ご専門の文明学の立場から京都文明、京都文化について一考を披露していただきました。「京都はほとんど歩いて行けるくらい狭いし、こじんまりした空間のよさもあります。学者、芸術家、政治家、庶民などいろいろな業種の人が何の隔でもなしに集まる場があります。国際京都学協会の役割もそういう場として機能することでしょう。ノーベル賞をもらう人に京都出身が多いというのは誇張でして、ユニークな研究は多彩な顔ぶれの人びと

との会話ができる場があるということが大きい気がします。京都には伝統があるが、そのままのかたちで維持していくのではなく、いろいろな変化を加えていくことを前提にしてみました。守るといふ姿勢ではなく、新しいものに挑戦していく精神がないといけません。京都は絶えず改革をして千年の都をつくってきたのです。」

昨今の京都市が導入した景観条例にも一言言を示された。「高さ制限だけでは景観問題を解決できるでしょうか。表を通ったときに面白い、「ああ、いいな」と思えるようなものをつくらねばなりません。市民がアイデアを出して面白いものにしてゆく、そういう新しい試みが出てきてもいいのでは。祇園祭でも布袋山の懸想品の修復や大船鉾の囃子の復興を目指すなど新しい動きがでています。」

ロチ・ハーン・米山さん 赤坂 賢(日本マリ文化交流協会)

外国人から見た日本は古くて新しいテーマである。なかでも、京都が外国人からどのように見られてきたのか振り返ってみよう。最近では地球温暖化の問題で京都議定書がとりざたされるが、はたして「キョート(Kyoto)」の国際的な知名度は深まったのだろうか。

維新後しばらく外国人の自由旅行は制限されたが、明治四年の第一回京都博覧会のため京都を訪問した外国人は七〇〇人以上におよんだという。その後も京都に足をはこんだ外国人は数知れないが、なかでもピエール・ロチは『秋の日本』の冒頭に「聖なる都・京都」という章をもうけ興味深い文を残していることで特筆できる。フランス海軍のトリオンファント号艦長として明治十八年七月から十二月まで日本に滞在したロチは、長崎での体験を小説『お菊さん』で描いたことで良く知られている。かれは神戸に寄港中のあいだに京都へ足をのぼし、当時の京都にかんする貴重な観察をしている。「なんとまあ広い都だろう、このキョートは、その公園やその宮殿やその

寺塔などで、ほとんど巴里ほどの面積を占めて。平野の真中に建設されながら、しかもひとしお神秘さを添えるためか、高い山々にかこまれていて。「しかもなんとという広大な宗教的遺跡だろう、なんとという巨大な敬神の聖殿だろう、古い皇帝たちのこのキョートは！あらゆる種類の神々や女神や獣たちに献げられた、量り知らぬ財宝の眠っている三千の寺々。沈黙している空の宮殿、そこではたぐいまれなる見事な奇妙さを以て裝飾された、つらなる金泥づくめの広間を、人々は素足でよこぎって樹齢数百年の老木の茂る神域の社、その中をゆく参道は、花崗岩や大理石や青銅などで作られた、怪獣の列でふちどられている。」ロチは也阿彌ホテルに宿泊し、清水寺、三十三間堂、方広寺大仏(昭和四十八年焼失)、二条城、北野神社など、人力車をつかつて精力的に京の街を駆け巡った。

ロチの記述に魅かれたのが北米滞在中のラフカディオ・ハーンだった。ハーンは千八百八十七年に発表された「聖なる都・京都」の三十三間堂、大仏などの部分をフランス語から英語に訳した。ちょうど「小さな」「奇妙な」「不思議な」などの形容詞が頻出する部分で、ロチの印象はエングティズム(異国趣味)に満ちているとして非難される傾向もあるが、ハーンを通じ広く英語圏の人々にも日本ひいては京都の風物が紹介されたわけである。

ロチの異郷描写を通じ日本への関心を深めたハーンはその後來日し、松江の中学に勤務することになった。出雲滞在中に残した作品『知られぬ日本の面影』のなかで、山陰の盆踊りについて「空を巡る月の下、踊りの輪の真中に立っている私は、魔法の輪のなかにいるような錯覚を覚えていた」と印象的に記している。この箇所がじつはロチに影響されたものだった。海軍に籍を置いていたロチはタヒチ、イスタンブールなどを転々とし、赴任先見聞を小説にしてきたが、西アフリカのセネガル駐屯の体験をもとにしたのが『アフリカ騎兵』である。酷熱の土地で日々を過す主人公のフランス青年兵が、ある夜兵舎の近くで催された輪舞に誘われる。内陸から徴用されたバ

(つづく)

ンバラ兵たちが踊るさまを見物しているうち、いつしか悠然とした踊りの輪に巻き込まれる。「澄明な夜の中で、この輪舞は殆ど音も立てずにぐるぐる廻り、一ゆつくりと、然し亡霊の輪舞のように軽やかに動き、一大きな鳥の羽根が触れ合うような、ふわふわした布の触れ合う音を立てていた」。

ロチからハーンへつながる詩的感受性の系譜を指摘したのは比較文学者平川祐弘氏であった。ところでわたしたちがロチに惹かれるのは、踊っていたのがバンバラ人だったからである。じつは、今からちょうど四〇年前に米山俊直先生とわたしが調査にはいったのが西アフリカ、マリ共和国南部のバンバラ人の農村だった。家主のデンバ・バガヨゴさんは、第二次世界大戦中にフランス植民地軍に徴兵されセネガルで軍務についた経験を語ってくれた。乾季の農村生活を過しているなか、われわれはデンバさんのみちびきで収穫儀礼や結婚式などの仮面ダンスを見る機会をもった。ある満月の夜には、真っ白な鳥をかたどった大きなかぶりものが旋回し踊るユノ儀礼にでくわした。米山さんは「あの夜の静謐さほど心に沁みるものはなかった」と書き残している。わたしたちが出会った民族の伝統的な踊りと、ロチやハーンが書き残した舞踊の場面にはどこか共通する点があるようだ。外国からみた京都を話題に筆をとったのだが、けつきよくはロチとハーンと米山さん、そしてフランスとアフリカと京都が時空を超えて微妙に交錯しているという結末だった。

源氏物語千年紀について

巻頭の臈谷理事の紹介どおり、今年の源氏物語千年紀の企画には国際京都学協会の会員が多数参加しています。源氏物語が国際的な注目を浴びていることは、A. ウエイリーによる英語訳をはじめとして、その後もフランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、フィンランド語など十数ヶ国語に翻訳されていることから明らかでしょう。

日本文学研究者で源氏物語千年紀の呼びかけ人の一人、ドナルド・キーンさんが昨年講演「源氏物語と私」で「戦争に嫌気がさして源氏の世界に逃避していた」と青年時代をふり返り、「文学の最高峰に日本人ももっと親しんでほしい」と呼びかけられました。

この機会にじっくり古典に取り組みたいものですが、現代語訳といつても与謝野晶子、谷崎潤一郎、円地文子、瀬戸内寂聴、田辺聖子などと数多く選択に迷ってしまいます。思い切つて中井和子の京ことば訳を手にとる勇気はありますか。活字が苦手というわけで漫画文庫「あさきゆめみし」(大和和紀)で手軽にすます向きもありそうですね。

千年紀委員会が主催や共催の事業が盛りだくさん用意されています。気軽に参加できて面白そうなものをいくつかひろってみました。

*源氏物語千年紀展。

期間：平成二十年四月二十六日(土曜日)～六月八日(日曜日)。

会場：京都文化博物館

*源氏物語千年紀ウォーク(源氏物語ゆかりの地をウォーキング)。

日時：(一)平成二十年二月十日(日)紫式部のいきたまち、

(二)三月十六日(日)光源氏と嵯峨野、

(三)四月十三日(日)宇治十帖ゆかりの地を訪ねる

主催：京都府ウォーキング協会

*ゴールドデン・エイジ・アカデミー

特別企画「私の源氏物語」(作家 瀬戸内寂聴)

日時：平成二十年二月二十二日(金)午前十時～正午

会場：京都アスニー4階ホール

なお、詳細はホームページやそれぞれの主催者にお確かめください(編集部)